

「日々の理科」(第 1565 号) 2018 (H30), 10, 21

## 「浅間山の初冠雪」

お茶の水女子大学附属小学校教諭

お茶の水女子大学サイエンス&エデュケーションセンター 研究員

田中 千尋 Chihiro Tanaka

独立峰の山頂付近に雪が積もって、麓からもそれを確認できた状態を「初冠雪」という。浅間山の場合、麓(標高 900~1100m)よりも山頂のほうが 8~10℃ほど気温が低いので、10 月に初冠雪を観測することが多い。今年は 10 月 20 日に、北麓の北軽井沢で初冠雪が見られた。



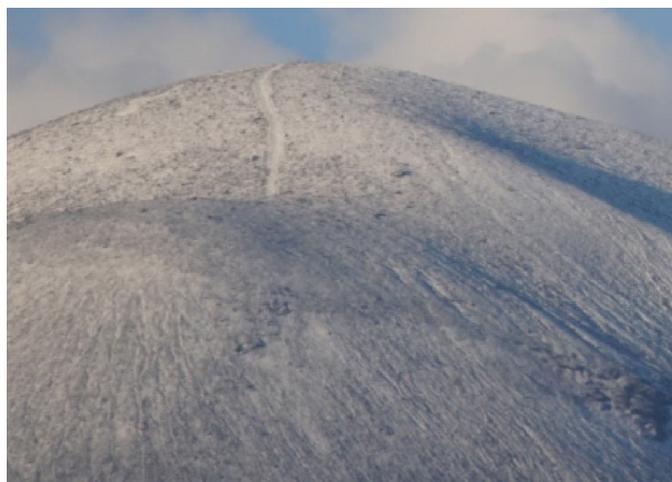
2018\_1020\_0640 (北軽井沢)

「見られた」といっても、東京から遠隔観測で気づいたものである。前日の雨のあと、早朝の浅間山は真っ白に雪化粧していた。上の写真は、ネットワークカメラの写真で、解像度は 640 とあまり良くない。



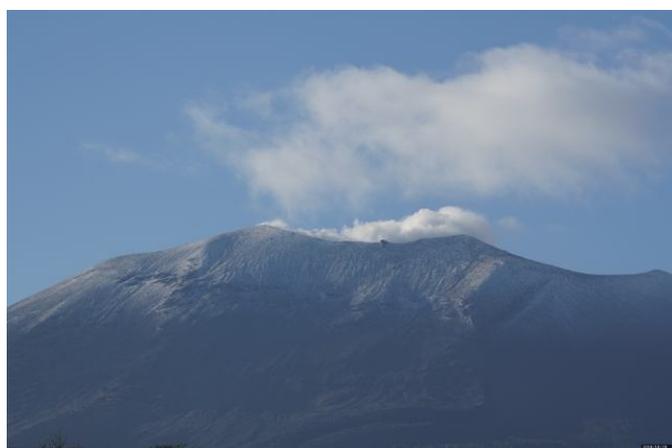
2018\_1020\_0630 (2 ページ目に拡大写真)

こちらは、デジタル一眼レフカメラの画像だ。東京から遠隔撮影できるように専用ソフトを開発してもらい、24 時間、浅間山の火山活動を監視している。



2018\_1020\_0630 (部分拡大)

前の写真の山頂付近を拡大すると、山肌の小さな侵食谷(雨裂)の 1 本 1 本まではっきりわかる。山頂付近の縦模様は、火山観測用のブルトーカー道だ。



2018\_1020\_0710 (嬬恋)

上は別の場所に設置したカメラの画像だ。この画像では、山頂付近だけに雪が積もっているとわかる。過去の画像を調べたところ、19 日の 19:50 に、すでに冠雪が確認できた。



2018\_1020\_2310 (2 ページ目に拡大写真)

20 日の深夜には、火星も写っていた。カメラの設置場所から見た浅間山の方は西南西なので、黄道に近く、よく月や惑星が沈むのが写るのだ。

